## 「研修を通して」

朝日町立朝日中学校　教諭　三　井　昭

研修主題「自らに誇りをもち互いに高め合おうとする生徒の育成」を目指し、話し合い活動を通して互いに認め合い学び合う学習活動を推進しながら学力を向上させることにより、自分に誇りや自信をもたせることなどに焦点を当てて研修を進めてきた。

私達が本校に赴任したときの秩序や節度にかける雰囲気や「生徒のために」統一行動していない教員集団に衝撃を受けた記憶がある。そこで規律と秩序のある学校を目指して、生徒一人一人の心に希望の灯をともすために、教員が一致して、授業や生徒会活動、部活動の「改善」に取り組んだことで、徐々に成果が現れてきたころ、当時の校長先生から「これからは研修だぞ。研修が学校を変えるから研修を頑張るぞ。」と言われ、２年間の道徳研修が始まった。

道徳の研修が始まって最初の効果は、ある主題について教員全員が取り組むようになったことだった。授業について多くの先生が職員室のあちらこちらで話し合うとともに、「この問題には、こうすればうまくいく」というＯＪＴが行われるようになったことである。とかく中学校では、教科ごとに干渉しないとか、ともに研修しにくいという側面がある。だが、道徳というだれもが行わなければならない切り口で研修を行った結果、お互いに授業について気軽に話し合い、共通の視点をもって教科や学年の枠を超えて研修を深めることができるようになってきた。どんなことを育てたいか、何を中心発問にするか、どんな資料を扱うかなど一から話し合い、ようやく授業にこぎ着けたこともあった。その甲斐があり、今では道徳の授業に率先して取り組む先生が増えてきたことがいちばんの成果と言えるであろう。

そこで今度は教科や学年の壁を乗り越えて学力向上を目指して研修しなければならないと考えた。「話し合い」という切り口で、いかにして学力向上につなげるかが課題になってくる。今年度は、学習課題や発問の工夫に焦点を当てて研究するグループと、授業形態の工夫に焦点を当てて研究するグループに分けて授業研修をしてきた。

全員が互見授業を行った。互見授業に参加するとき「研修意見カード」を準備したことにより、主体的に授業を参観する教員が増えた。授業をする教員は３つの仮説の中から自分が焦点を当てたいものを選び、「学習形態」「発問・学習課題」の視点で評価の観点を設定し、参観者はその観点について自由に意見を書き加えて「研修意見カード」を渡すことにした。それをもとにして意見交換し合うことで、評価を謙虚に受けとめ、教材分析の仕方などを話し合うことが増えてきた。この結果、生徒への指示の仕方が明確になったと感じる教員が増え、指導技術の向上に効果が見られるようになってきた。また、普段見ることができない他教科の授業を見ることにより、気づかなかった生徒の姿が分かったり、主体的で前向きに研修に取り組んだりしたという成果があげられる。一方で、校務分掌や学級事務などで互見授業に参加できないとか、道徳の時間を単なるビデオ視聴で終わらせてしまうという課題も見られるようになり、この研修が一過性のものにならないようにしなければならないと思う。

生徒は、部活動や生徒会活動を含めて学校に来たいと思っている。授業も含めた学校生活を充実させ、あらゆる場面で自己実現をし、活躍する場面を増やすことにより、生徒と教員の信頼関係をはぐくみ、自分や学校に誇りをもつようになるものと確信している。今後も、バランスよく息長く研修を続けていくことで、授業力が向上し、学校教育目標達成につながると思う。